

日野町立学校跡地利用住民説明会

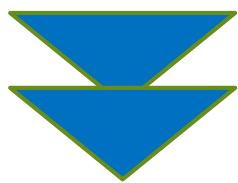
- 令和4年5月27日（金）日野町公民館
- 令和4年6月 1日（水）日野町山村開発センター

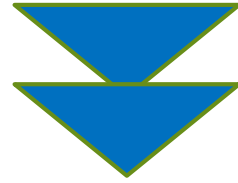
日野町企画政策課

- 日野町の小中学校は、令和5年度より日野中学校、根雨小学校、黒坂小学校の3校が統合され、義務教育学校として新たなスタートを切る。
- それに伴い現在の日野中学校と黒坂小学校は学校施設としての役割を終える。



- 地元住民、防災関係者、学校保護者等からなる「日野町立学校跡地利用検討委員会」を立ち上げ
- 令和2年度から令和3年度にかけて6回にわたり跡地利用について検討





■ 令和4年3月28日 学校跡地利用検討委員会報告書の提出

	開催日	内容
第1回	令和2年11月16日（月）	<ul style="list-style-type: none">・趣旨説明・座長選出・他団体の事例紹介
第2回	令和2年12月21日（月）	<ul style="list-style-type: none">・利活用についてブレインストーミング
第3回	令和3年3月6日（土）	<ul style="list-style-type: none">・黒坂小学校現地確認・来年度の進め方について協議
第4回	令和3年9月28日（火）	<ul style="list-style-type: none">・日野中学校の利活用について
第5回	令和3年12月22日（水）	<ul style="list-style-type: none">・報告書案について
第6回	令和4年3月4日（金）	<ul style="list-style-type: none">・報告書案について・町長への報告日程調整について

学校跡地を取り巻く現状

- 全国的に人口減少と高齢化が進む中、2050年代には町人口は1000人を切り、高齢化率は60%に達する見込み（※社会保障・人口問題研究所の推計）
- 中山間地に位置する日野町では特に高齢化の急激な進行、人口減少が顕著



- 黒坂地区では、黒坂小学校の義務教育学校への統合、鳥取西部農協黒坂支所廃止等により、地域の活力の維持が危惧される
- 根雨・野田地区は役場や学校、病院が位置する地域であり、比較的、人口減少や高齢化はなだらかではあるが、将来40歳以下の人口は減少する見込み

地域防災への配慮

- 全国的に過去に例のない大規模な自然災害が多発
- 防災・減災対応は喫緊の課題であり、跡地利用についても、この影響について配慮
- 特に、黒坂小学校については、町の指定避難所となっており、防災機能の維持について検討を進める

上位計画との整合性

- 人口減少を克服し、地域経済の発展や活力ある地域社会の形成などを目的とした「第2次きらり日野町創生戦略」及び「財政推計」等との整合性が保たれるよう検討していく

学校跡地施設の概要

	日野中学校	黒坂小学校
所在地	野田210番地	黒坂1560番地1
敷地面積	22125㎡	10980㎡
建築面積	4043.5㎡	2952㎡
建築年	昭和58年度 (新耐震基準対応)	昭和45年度 (平成21年度耐震対応)
災害危険度	敷地のプールテニスコート側の半分が土砂災害警戒区域に指定	特になし (※町指定避難所)

日野中学校・黒坂小学校跡地共通の活用案

- 企業誘致の一環としてサテライトオフィスとして利用する。



日野中学校跡地の活用案

- 町内では、乳幼児が遊べる場所がないことを鑑み室内に遊べる場所（キッズスペース）を設置する。
- 体育館やグラウンドは学校の授業以外にも部活動や町内のスポーツ団体等が利用している。統合後も現中学校体育館及びグラウンド、テニスコート、プールについては、現在の体育施設としての活用を引き続き行う。
- 高齢者住宅としての活用も有効活用の手法の一つ。

- 想定外の災害に備え、代替庁舎としての機能を持たせる。中学校は現在も地域イントラネットの拠点施設となっており通信機能の確保も比較的容易である。

黒坂小学校跡地の活用案



- 黒坂小学校については、黒坂地区から地域の拠点機能も有していた学校が失われることを念頭に置いて、利活用の検討を進めた。
- 同施設は、町の指定避難所となっており、災害時と平時に分けて利活用を考える必要があると思われる。
- 災害時には地域住民の避難場所としての機能を維持する。その他、防災の機能として防災資機材の保管場所としても活用を検討。

- 平時においては、住民憩いの場となる公園の設置を検討すること。
- 町では人口減少や少子高齢化が進む中、生活圏を維持するため地域コミュニティの中心となる「小さな拠点」づくりを進めており、その事務所の設置も検討する。
- 支所や公民館、老人福祉センター等、機能面、各施設老朽の観点から集約化も検討。
- 近隣ではスポネット南部や溝口テラソのように自治体がスポーツ施設を設置運営している例もある。スポネット南部の利用者には日野町民も含まれており、将来的には、同等の機能を持つ施設の整備を検討する。
- プールについては、社会体育施設としての利用もありうるが、安全面等、維持管理が困難であれば撤去についても検討すること。

財源の検討

- 日野町は過去に財政健全化団体となった経過があり、依然として財政規模の小さい日野町では公債費を極力抑制する必要がある。
- 町財政は現在も厳しい状況にあり、事業実施にあたっては極力有利な財源を検討しなくてはならない。
- 事業実施に必要な財源確保のためアンテナを高く構え情報収集に努めていただきたい。

終わりに

本検討委員会では、義務局育学校設立に伴い、学校施設としての利用を終える日野中学校及び黒坂小学校の跡地利用について、様々な角度から議論を重ねてきた。

議論の結果として今回、日野中と黒坂小とも共通する利用方法、それぞれの施設が立地する地域の特性を考慮した利活用といった具合に整理して示した。

町には、本報告書をもとに、広く住民に丁寧な説明を行い、その意見を踏まえ活用や管理運営の検討を進めるようお願いしたい。